

特集：生愛会グループ幹部職員から新年のご挨拶

生愛タイムズ

第24号
平成31年3月発行

SEIAIKAI
HEALTHCARE
CORPORATION



SEIAI WELFARE
PROJECT GROUP



生愛TIMES



CONTENTS

理事長年頭所感

特集：先生方、各部署の代表職員から
新年のご挨拶

平成30年度合同クリスマス会

介護現場革新会議

谷口看護師長の厚労省顕彰受賞を祝う会

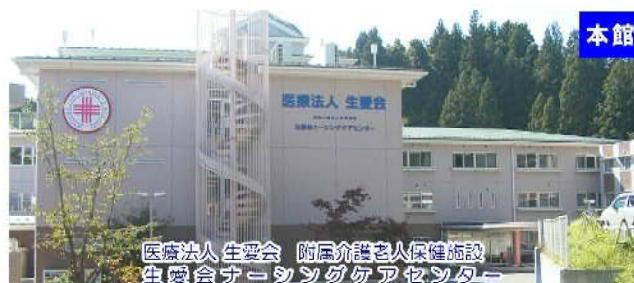
生愛会グループ作品展

防災訓練

ご意見箱

認知症対応プログラム

編集後記



本館



2号館



4号館



新春号

医療法人 生愛会
社会福祉法人 生愛福祉事業団

年頭所感

医療法人愛会
社会福祉法人愛福祉事業団
理事長・医学博士 本間達也



新年、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。今年は元号が5月に変わるということでおちで、そういう点では、全てが急速に変わっていく、そのような時代だと思います。我々、生業会グループも、今の各部署からの報告によりますと、今年の3月、4月にかけて、介護・看護職等あらゆる職種が、この人手不足の中ではあります、おかげ様で内定者がいると聞いております。新しい仲間が増えたことになります。新規の部署の一つ一つの積み重ね、それを全うして頂けたら良いと田代をなすし、皆さんそれぞれの個々人のプライベートなところで、も、いろいろな点で辛せが多くなるようになるところです。暮れにサンオールスターの「汚れた台所」という歌を聴いていたら、なかなか思想的な歌を歌っていると思いました。

詩の一節の中に「平和」という神経ガスに侵されている。「と、日本人はそんなようだと歌つてゐる詩があります。なるほど確かに平和というのはいいことだと思いますが、やはり現代の日本全体を見た時に、平和ボケしているところが数多くあつて、そのバランスが非常に崩れてしまつていいのだなと私は思っています。

さて、私の今年の中央での活動の一つにしていきたいこととして、医療・介護現場の皆さん方が日常的に非常に苦労をして、特に認知症の利用者が多く、その対応に苦慮しているわけです。が、去年は韓国でカスタマーアジハラスメント、いわゆる「カスハラ」が取り上げられ、やはり我々医療介護従事者に対して、いくら認知症といえども、いきのわから怒鳴られたり、いきなり詫びることを言われたりする、普口とはいえども心情

的に限界があるのではないかと思つています。そのことをもつて、私は政府にもそういうことを大いに発信していく必要があると考えています。私達、医療・介護現場で働いている人は、全体を見ますと百万人以上いるのです。その人達のモチベーションを下げることがあると、私はこの国が崩壊してしまうと思つています。だからこそ、そういう点です。今年は我々の身を守つていくということを、あらゆるチャレンジを使って、私達がこれだけ一生懸命やつていて、それを大いに訴求をして、それに対して、利用者・家族も含めてもう一度、「介護」ということを考えてもらいたいと思うのです。

今年は、広く国民に私達の立場を伝えていくことが中央でやつていかなければいけない一番の仕事であり、それから生愛会グループにおいては何としても職員の生活を守るために一定の数字を出していかなければならないと思っています。本年も生愛会グループ総職員二百名の陣頭指揮を執らせていただき、尽力してまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申しあげます。

ホールムもそうですが、本当に限られた職員数の中でやりくりをしながら夜勤をし、通所リハビリに関しては限られた職員数で運営をしています。本来在宅であれば、外来通院をするのに送迎はないわけですね。それに病院搬送になれば、我々の仲間が無償で病院へ送つて診察や検査が終わるまで付き添うということまでしているわけです。それ以上、人員基準を厳しくされてしまうと、私たちは下上がつてしまふということも一つ考えていかなくてはいけないです。まして少子化で、人手がどこでも不足しています。今我々の立場を通じて、大いに訴求をしていきたいと思います。

また、前述したことに関連して、去年は東京地方裁判所立川支部及び高等裁判所の裁判官・判事から講演依頼を受け、これだけ医療・介護現場が苦しんでいるということを約五十名の裁判官・判事に対して訴えて、理解してもらいました。この裁判官らが全国の裁判所に支所長や署長としてこれから送り出されていく時に、色々な訴訟の案件を抱えている中で少しでも頭の隅に私が講演したことが焼きついてくれれば良いと思います。

先生方より新年のご挨拶



醫療法人 生愛會
常務理事・院長

附属介護老人保健施設 生愛会ナーシングケアセンター管理者

医学博士 野口尚一

老健のお仕事は更に多様化専門化

人生100歳時代を見据えた診療報酬・介護報酬同時の大改定が平成三十年にあり、老健での改訂事項は十六項目に及びました。老健機能は特に「在宅復帰・在宅療養支援」が明確化、実現のため

が、重症者ほど高価薬を含む多剤を服用し経営を圧迫します。薬剤の肝腎等障害も多くなり、その発見治療に検査回数費用も増加中です。

に非薬物療法で効果をあげている専門グループの活動もあり、科学的根拠に基づいた介護の成績の一つです。非薬物療法は老健の基本です。自立支援と住宅復帰を繰り返して、いつかは重症認知症、肺炎や心不全で入院が繰り返されます。専門的嚥下治療や介助しても嚥下しなくなれば終末期と判断され、看取りケアとなります。住宅復帰の老健施設でも、看取りケアが求められています。

終末期と診断し、看取りケアを開始する時は家族の同意が必要です。ご家族には、ご本人が意思疎通できる状態のうちに、ご本人が最期をどう過ごしたいか、延命治療などへの意向を確認しておいて下さい。今は本人の意思を書類にします。今回の改定でもアドバンス・ケア・プランニングとして推奨されています。

皆様明けましておめでとうござります。時の流れは早く、生愛会本問理事長のもとで平成二十六年三月から勤務以来5年日を迎えました。医師会での仕事・使命は、病院・診療所の医療提供体制について、我が国・本県の行政を参考に県内の地区毎に作成協力を願うこと、さらに医療機関での労働・救急業務に医師・従業員の健康確保に精励していくこと、医療保険請求の規則を守ること、高額医療機器の共同利用を勧めることを話してきましたことを記憶しております。牛愛会に勤務して医療介護の連携の大切さを身に染みている現在です。牛愛会に入居者の多くは車椅子利用と認知症等級程度Ⅲ・Ⅳ・ⅤさらにMの程度もおりますが、職員の医療介護業務に、その人の人格を尊重し寄り添い生きがいを感じていただく会話行動を身近にみております。

私も入居者に若い時の楽しい夢を見ますかと尋ねたり、家事作業はどうだつたですかと聞いたりしています。中には趣味で書道を学

菊雄（元福島県・福島市医師会会長）

び教示している方、第二次大戦のとき看護師として外地に勤務した経験談を話す方もおり、戦争時の生存のため、ご両親は看護師への道を選ばせたのではとお話し合つた方もおり、心身の健康維持に貢献できるのではと思っています。地域包括支援センター職員を配置し活動中です。平成三十一年三月に福島医大リハビリテーション医学講座教授大井先生の司会で「地域包括ケアを支えるリハビリテーション」として福島市内の実施病院と当生愛会から事例発表をしております。

この発表に生愛会ナーシングセンターの歯科衛生士から興味深い発表がされております。特に「多職種連携強化の取組事例と今後の課題」として生愛会全体のグループ一報概要説明後、事例として九十歳男性、要介護4、寝たきり度C2、ショートステイ利用希望者に当施設ケアマネジヤーの実態調査、レトダーチャート前後作成、看護師・介護職、PT/O.T、管理栄養士、歯科医師／衛生士が関与。訪問し義歯の調整実施。この結果、本人の自宅での日常生活、独立歩行に関連業種のスクラムで改善している発表。

一方、市内総合病院でも地域の高齢化と地域医療構想を踏まえ急性期医療の一部を地域包括病棟へ再編し在宅復帰に向けた医療を提供する亞急性期機能を担う地域包括ケア病棟を導入しております。

先生方より新年のご挨拶



私の昭和

医学博士 本間守男（元神戸大学 医学部長）

いよいよ平成最後の年を迎えました。平成はわが国最初の「大化」以来二四七番目の元号で、今年は新たな元号を迎える節目の年となります。連續する西暦の表記に対しても、日本固有の元号は、非連續的、且つ有限のもので、或る時点に限り再振り出しに戻ります。この元号表記は、若い人には煩わしいと思う向きもありますが、私のように昭和と平成の時代をフルに生きて来た者には、無意識のうちに、二つの時代を分けて回想していることに気付かされます。この元号表記は、若い人には、慣れ親しんでいます。この元号表記は、若い人には、慣れ親しんでいます。

昭和二十年八月十五日正午。炎天トの校庭で教職員と共に玉音放送を拝聴し、日本國の敗戦を知りました。程なく授業は再開されました。ものの、二年に及ぶ失われた勉強の習慣を取り戻すのは容易な事であります。しかし、昭和の前半は、大正口で、マジンの余韻にひたるゆとりなど、これらつぱつちもありませんでした。

昭和二十年八月十五日正午。炎天トの校庭で教職員と共に玉音放送を拝聴し、日本國の敗戦を知りました。程なく授業は再開されました。ものの、二年に及ぶ失われた勉強の習慣を取り戻すのは容易な事であります。しかし、昭和の前半は、大正口で、マジンの余韻にひたるゆとりなど、これらつぱつちもありませんでした。

昭和二十年八月十五日正午。炎天トの校庭で教職員と共に玉音放送を拝聴し、日本國の敗戦を知りました。程なく授業は再開されました。ものの、二年に及ぶ失われた勉強の習慣を取り戻すのは容易な事であります。しかし、昭和の前半は、大正口で、マジンの余韻にひたるゆとりなど、これらつぱつちもありませんでした。

ミールラウンドに参加して
医学博士 水野 章（福島赤十字病院 名誉院長）



生愛会に勤務を始め四年になります。それまで長年病院に勤務していました。これらの仕事は、未だ年端も行かぬ私達にとってはかなりの重労働で、それに加えて常に空腹との戦いでもありました。昭和二十年八月十五日正午。炎天トの校庭で教職員と共に玉音放送を拝聴し、日本國の敗戦を知りました。程なく授業は再開されました。ものの、二年に及ぶ失われた勉強の習慣を取り戻すのは容易な事であります。しかし、昭和の前半は、大正口で、マジンの余韻にひたるゆとりなど、これらつぱつちもありませんでした。

生愛会に勤務を始め四年になります。それまで長年病院に勤務していました。これらの仕事は、未だ年端も行かぬ私達にとってはかなりの重労働で、それに加えて常に空腹との戦いでもありました。昭和二十年八月十五日正午。炎天トの校庭で教職員と共に玉音放送を拝聴し、日本國の敗戦を知りました。程なく授業は再開されました。ものの、二年に及ぶ失われた勉強の習慣を取り戻すのは容易な事であります。しかし、昭和の前半は、大正口で、マジンの余韻にひたるゆとりなど、これらつぱつちもありませんでした。

生愛会に勤務を始め四年になります。それまで長年病院に勤務していました。これらの仕事は、未だ年端も行かぬ私達にとってはかなりの重労働で、それに加えて常に空腹との戦いでもありました。昭和二十年八月十五日正午。炎天トの校庭で教職員と共に玉音放送を拝聴し、日本國の敗戦を知りました。程なく授業は再開されました。ものの、二年に及ぶ失われた勉強の習慣を取り戻すのは容易な事であります。しかし、昭和の前半は、大正口で、マジンの余韻にひたるゆとりなど、これらつぱつちもありませんでした。

高齢の人所者にとって「食べる」とは一番の楽しみであり生きがいです。しかし、健康を維持する基本です。同時に食事の様子はその日本の健康状態や病状を把握するには一番の下掛かりになる場所でもあります。

医療法人 生愛会 生愛会中央医療クリニック 医師

医療法人 生愛会 生愛会中央医療クリニック 診療部長
社会福祉法人 生愛福祉事業団 評議員

生愛会グループ幹部職員より新年のご挨拶

谷口裕子

趣味：仏閣巡り

医療法人 生愛会 常務理事

生愛会ナーシングケアセンター 看護師長

福島県立総合衛生学院 非常勤講師

2019年の元旦は晴天でさわやかなスタートでした。今年の冬は、例年に比べ積雪が少ないと言いましたが、インフルエンザやノロウイルスなど感染症の流行に毎日、ヒヤヒヤしながら生活をしております。やむを得ず面会制限を実施することもあり、ご家族や地域の皆様にはご協力・ご理解いただき、ありがとうございます。

生愛会ナーシングケアセンターでは、超在宅強化型として、在宅支援に力を注いで参りました。老健の果たすべき役割である、在宅支援は決してマニュアル通りにスムーズにすすむ訳ではありませんが、利用者の方が自宅に帰っていく時の嬉しそうな顔を見たり、また自宅からショートステイや通所リハビリで再び施設で顔を合わせ元気な姿を見たりしますと、嬉しく思います。

利川されている本人の気持ち、支えるご家族の気持ち、どちらも尊重しながら今後も在宅支援に努めて参りたいと思います。

施設を利用されている皆様は、90歳を超えている方も多いのですが、皆さんお元気でよく食べ、そしてよく笑います。少しでもこの笑顔を長く見られるように支援していきたいと思います。

本年も、よろしくお願ひ致します。



鈴木三千代

趣味：映画・ドラマ鑑賞

社会福祉法人 生愛福祉事業団 常務理事

特別養護老人ホーム 生愛ガーデン 施設長

認知症高齢者グループホーム 生愛レゾナスホーム長

毎年元日に「何事も、早め早めに取り組んで、気持ちに余裕をもてるようにならう！」と心に誓うのですが、なぜかいつもバタバタと午の瀬まで走っている、いや、走り続けているような気がします。今後こそは…と思うのですが、なぜかうまくいきません。

生愛会に奉職して早いもので20年の月日が流れました。これもまた早いと感じるところでもあります、20年たって午ばかり重ねていて、なかなか仕事面でも人間的にも成長していない（進歩していない）自分を振り返り反省する日々に追われています。昨年は、父と飼い犬（柴犬）が相次いで他界し悲しい出来事もありましたが、朗報もありました。私にもついに「孫」ができました。

世間のおじさまたちが、孫の写真を携帯の待ち受けにして、白慢げに「かわいいだろ？」と話す姿をよくみかけておりましたが、待ち受けにまでするほど可愛いものなのだろうか、と正直なところピンと来なかつたのですが、今になってようやくわかった気がします。孫というのは、我が子と違った可愛らしさを感じるのだという事を日々実感しています。

今年は自分の成長を目標に置きながら、孫の成長を楽しみに見守っていきたいと思います。



伊藤健博

趣味：パソコン・バドミントン

医療法人 生愛会 常務理事

生活期総合リハ医療ケアセンター 副センター長

全老健認定リスクマネジャー

医療法人 生愛会 生活期総合リハビリテーション医療ケアセンターは今年4月で開設から5年を迎えることとなりました。地域の皆様にもお力添えいただいたおかげと感謝申し上げます。

当センターの南側に植樹された桜の木もすくすくと育ち毎年花を咲かせるようになりました。毎年開催されており、「さくら祭り」も恒例となり、地域交流館 介護予防カフェ「カナリア」もボランティアの方や地域の介護予防サロンとしてご利用頂いております。

昨年12月には生愛ヒルトップ・ルネサンスで101歳の入居者がターミナル（終末期）をお迎えになりました。諸先生方には安心した最後を迎えることが出来るようにこまめな診察とご家族に対して丁寧な説明を行って頂き、住み慣れた場所で、頬馴染みの職員の介護のもと安らかに永眠されました。住み慣れた地域を離れることなく、新たな家としての居場所、行く場所となれるように今後も努力して行きたいと思います。



佐々木清憲

趣味：卓球

医療法人 生愛会 常務理事 理事長秘書

全老健認定リスクマネジャー

一般社団法人 福島県老人保健施設協会 事務局長

生愛会グループに奉職し、18年になりました。その間、本間理事長の秘書として先生の近くで仕事をさせていただき、日々勉強をさせていただいております。特に事務の仕事は「事」を務めるのではなく「時」を務める大事な仕事なのだと教えていただいたことが頭から離れません。仕事を自分の都合で後回しにせず、瞬時に報告をする。それが相手との信頼関係を構築するということを学びました。

また、木間理事長の最近の活動について少しご紹介をさせていただきます。現在、先生は国の各種委員会の委員としての要職を担わせておりますが、特に最近では医療・介護関連職の人材確保や外国人人材の問題、介護現場の革新会議等、人材をテーマとした会議等に多く出席されています。介護現場革新会議では介護業務の仕分けやロボット、元気高齢者の活用の他に介護業界のイメージ改善に取り組まれております。

私も生愛会グループの人事を担当させていただき、今でも原発事故の影響が強く続いていると実感しております。今後も仕事に妥協をすることなく生愛会グループ発展のために尽力していきたいと思っております。本年も宜しくお願ひ申し上げます。



平成30年度合同クリスマス会

盛大に開催される



社会心理学人生观与事学研究
公益项目负责人：杨晓果
前总编：余丁鹤
执行主编：李平生



出原法子・上武智子・荒崎由美
上武智子・ソシタケアセンター
鈴口哲子・貴族の妻



医療法人 生榮会 関西介護老人保健施設
中条典ナーシングリケアセンター
介護生活相談センター

A photograph of a panel discussion at the 2003 Annual Meeting. Five men in suits are seated behind a long table covered with a white cloth, facing an audience. A blue banner with the text "2003 ANNUAL MEETING" hangs above them. The background shows a wall with several small flags or banners.



「ITの高い機能「遊び世界」を
参加者全員で使う



—次姓氏·同姓氏——江姓
沐村三石先生



九月癸卯朔旦 九月癸卯朔旦
九月癸卯朔旦 九月癸卯朔旦



第二十九代新上帝孫
田國林孫孫

本間理事長が「介護現場革新会議」の委員として出席

厚労省が「介護現場革新会議」を発足
業務の切り分け・介護助手の活用など推進

日時：平成30年12月11日（火）
場所：厚生労働省 省議室



会議で挨拶する根本厚労相
(本選出衆議院議員)

厚生労働省は平成二十一年十二月十一日（火）、一介護現場革新会議を立ち上げて初会合を開きました。今後の更なる高齢化に耐えられる体制の整備に向けて、業務の効率化や職員の負担軽減・離職防止、定着促進を実現する具体策を話し合ったために発足した会議です。高い専門性が必要な仕事とそうでない仕事を切り分け、介護助手などを有効に活用していくマネジメントを広める手立ても俎上に載せる。年度内に「現場革新プラン」をまとめ、その後の取り組みに反映させていく方針です。

「生産年齢人口が急激に減っていくなか、サービスの質を落とさずに介護ニーズの増大に対応していく必要がある」。会議に出席しました根本匠厚労相はそう述べました。

まずは施設で実践できることから議論を進めていくということです。委員も特養や老健の団体の関係者らで構成されており、全国老

リジとして全国数ヶ所でパ
イロット事業（先進的試験
的事業）を実施していく予
定です。

委員は次の通り。▽老施
協・石川憲会長▽同・木村
折之副会长▽全老健・東憲
太郎会長▽同・本間達也副
会長▽日本医師会・横倉義
武会長▽同・江澤和彦常任
理事▽日本認知症グループ
ホーム協会・河崎茂子会長
▽同・佐々木薫副会長

厚生労働省は平成二十一年十二月十一日（火）、「介護現場革新会議」を立ち上げて初会合を開きました。今後の更なる高齢化に耐えられる体制の整備に向けて、業務の効率化や職員の負担軽減・離職防止、定着促進を実現する具体策を話し合ったために発足した会議です。高い専門性が必要な仕事とそうでない仕事を切り分け、介護助手などを有効に活用していくマネジメントを広める手立ても俎上に載せる。年度内に「現場革新プラン」をまとめ、その後の取り組みに反映させます。この好例も参考に、各施設での介護人材を確保したり、定着を促進するための具体策などをを目指して、新規人材確保・離職防止の取り組みの方向性をとりまとめ、1月以降に第2ステップの担当者は会合後、「現場の好例も収集し、その横展開や自治体の新規事業もつなげていきたい。今の制度の中で現場を支える方々と協力しながら進められることを中心にしていく」と話しました。

人保健施設協会からは東憲太郎会長、本間達也副会長が委員を担当しています。介護助手の活用は、例え掃除や整頓、ベッドメイキング、配膳・後片付け、書類の整理などをシニア層に任せる構想です。一線を退いた人などが活躍できる場の確保につながる、というメリットも指摘されています。

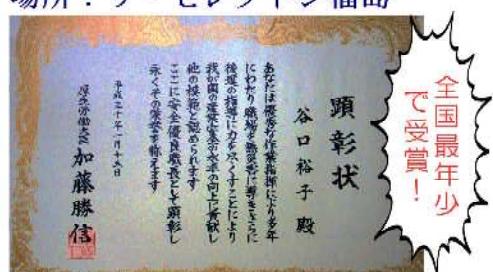
谷口裕子看護師長の厚生労働大臣顕彰受賞を祝う会 開催



本問理事長(左)、谷口裕子看護師長(中央)、
鈴木三千代施設長(右)



謝辞を述べる谷口裕子看護師長



日時：平成31年1月12日（土）
場所：ザ・セレクトン福島



参加者全員で集合写真

◆谷口裕子看護師長よりコメント◆本間理人事長よりご推薦をいただき、厚生労働大臣顕彰を厚生労働省で受賞させていただきました。全老健関係者では私を含め3名が今回の同賞を受賞しました。皆様に支えていただいたからこそこの受賞だと思っております。ありがとうございます。今後も精進していきたいと思います。

医療法人 生愛会 常務理事で生愛会ナーシングケアセンター・生活期リハビリティーション棟の谷口裕子看護師長が、優秀な作業指導により多年にわたり職場を無災害に導き、中後に後進の指導に力を尽くすことにより我が国の産業安全の水準の向上に貢献し他の模範と認められたことで、安全優良職長として「平成二十九年度 安全優良職長 厚生労働大臣顕彰」を受賞しました。

今回の谷口裕子看護師長の受賞を祝い、本問理事長が代表発起人となり、ザ・セレクトン福島で「谷口裕子看護師長の厚生労働大臣顕彰受賞を祝う会」を開催致し、職員や関係者を含め三十二名が出席しました。

今後も谷口裕子看護師長の更なる発展に期待したいと思います。



第10回生愛会グループ作品展 開催



熱心に作品をご覧になる来場者。各施設でも入所者・利用者の皆さん
が見学に訪れた。(写真上)

平成三十年十月十一日(木)～
十六日(火)までの六日間、市内
のふくしんギヤラリーにおいて
生愛会グループ作品展を開催致
しました。毎年恒例となつてお
ります生愛会グループ作品展も
今年で節目となる十回を迎えた。
年々出展作品の質も高まつてお
り、今年もアイディア溢れる約
六十五点の手芸や書道、工作作
品がにぎやかに展示され、六日
間を通じて百七十六名の方々に
ご来場いただきました。誠にあ
りがとうございました。

また、十一月一十八日(水)に
は第十回生愛会グループ作品展
表彰式が執り行われ、今回の作
品展で金賞・銀賞・銅賞・特別
賞を受賞された入所者・利用者
の皆さんへ本間理事長より賞状
と賞品が授与され、一生懸命取
り組まれた成果に笑顔が見られ
ております。

来年は、会場のふくしんギヤ
ラリーが都合により午間休館で
となることを受け、別の会場で
の開催を検討しております。次
回に向け皆さんと協力して作品
作りを行つていきたいと思いま
すので、引き続
ぎ宜しくお願
い申します。

第十回生愛会グループ作品展受賞作品紹介



表彰式にて、受賞者の皆さんも
賞状を手に本間理事長と記念撮影



金賞 「熱帶魚」ヘルスケアスクール

銀賞 「鶴ヶ城」生愛ガーデン

銅賞 「耳無法」通所リハビリテーション科

特別賞 「紙粘土アイスクリーム」山川ミツ子様

特別賞 「毛糸のボンボンで作る動物」上屋ツル様

医療法人 生愛会グループで災害対応訓練実施



怪我をした職員を乗用カートで 移送する訓練



容態急変した生愛ヒルトップ・ルネ サンフ入居者の移送訓練



容態急変した生愛ヒルトップ・ルネサンス
入居者の移送訓練



本館に設置した救護室に移送完了
奥に野口先生が待機

日時：平成30年12月21日（金）
場所：医療法人 生愛会グループ
敷地内

平成二十年十二月二十一日（金）、医療法人 生愛会
グループ敷地内で行いました。

この訓練は、東日本大震災の経験を教訓にし、昨今
の上砂災害を鑑みて有事の際に福島市から福祉避難所
の指定を受けている医療法人 生愛会 附属介護老人保
健施設 生愛会ナーシングケアセンターと社会福祉法人
生愛福祉事業団 特別養護老人ホーム 生愛ガーデンへ
の要援護者の受け入れを想定し実施しました。施設入
所者・利用者の適切な避難誘導等の方法を取得し、各
種非常用機器の取り扱い方法を学び、災害活動を円滑
に行なうことができるようになることを目的としてい
ます。

今回は、集中豪雨により生愛会グループの裏山が崩
れ、土砂災害が発生、土砂が1号館の2階建物内部に流
入、停電、断水発生し、生愛ヒルトップ・ルネサンス
入居者を避難誘導する想定で行ないました。

